

エコパ



エコパートナーくまもと 広報誌 NO.7

<http://www.ecopa-kumamoto.com/>

発行:エコパートナーくまもと 2008年春号 編集:広報ワーキンググループ

森へ川へ! 山に街に! 今年も飛び出すエコパの活動!!

この4月25日で発会から6周年を向かえた『環境パートナーシップくまもと市民会議』こと通称『エコパートナーくまもと』(エコパ)は、各ワーキンググループ(WG)の平成20年度事業計画も出揃い、7年目の今年も活発な活動が展開される事が期待されている。(詳細は2~3ページをご覧ください)

各事業別で見ると、『くまもと環境フェア2008』が今年も秋に開催予定。まだ明確ではないものの、今年は熊本市以外の行政団体も『共催を』とのオファーもあることから、意外なコラボが見られるかも……。

例年4月に熊本交通センターのセンターコートで実施される『エコフリマ』は、『エコ・フリー・マーケットWG』が、今年も4月27日(日)に大々的に実施。およそ800名の市民が参加し、大盛況のうちに幕を閉じた。

ワーキンググループ別では『水と緑WG』の『ムササビの森づくり活動』や、『よかエネ部会』の『よかエネ市民学校』は着実に実績を上げながら、今年度も年間を通して実施される。



『くまもと環境フェア2007』での1コマ

『環境教育WG』は地道ではあるが、今後のエコパの活動に大きな影響をもたらすであろう『環境教育人材バンク』を、今年1年間かけて創設。『自転車・バス・電車が主役のまちづくりWG』では『駐輪場問題解決に向けた社会実験』や放置自転車の実態調査、複数回の対話集会を予定している。

『ゴミなくし隊WG』は、県内県外への先進地の視察を実施するとともに、ごみ減量に向けた啓蒙のチラシを市内一円に配布。『食と農・くらしと環境WG』では『食育エコクッキング』を一般向け、事業者向けをそれぞれ実施するほか、野外において自然エネルギーを使った『野外エコクッキング』も予定している。

『グリーンコンシューマーWG』は昨年実施して好評を得た『夏休み環境自由研究応援団』を今年も小中学生を対象に夏休み期間に実施するほか、映画上映会も計画している。

以上のように、抜粋しただけでも活発な活動が予想され、今年も様々なフィールドで活躍するエコパ会員の姿が見られることであろう。



Lineup!!

記事	頁
エコパートナーくまもと年間活動予定表	2~3
ワーキンググループ紹介	4~5
くまもと環境フェア2007紹介	6~7
入会案内	8
読者アンケート	8
§コラム§	
『大津瀬田裏原野の野焼きに思う』(中村著)	2~3
『不都合な真実』(上野著)	5
『春に想う』(梶原著)	5
『新たな価値観の誕生秘話』(佐藤著)	6~7
『編集後記』(西島著)	8



エコパートナーくまもと 2008 活動予定表

WG 月	全体	グリーン コンシューマー	エコ・フリー ・マーケット	水と緑	自転車・バス ・電車が主役の 街づくり
4			27日(日) エコフリマ センターコート	26日(土) 孟宗竹の駆逐	
5				△ササビ巣箱調査 月1回 △ササビ観察会 年3回 水環境学習P情報 交換会、年4回	
6	年次総会	マイ箸使おう! プロジェクト			
7	企画運営委員会 1回/月程度			地下水流域の 見学と交流	駐輪場問題解 決に向けた 社会実験
8		8月上旬 夏休み環境自由 研究応援団		7月または8月 江津湖探検隊 ざる田通信	
9					公共交通利用促進 ポスター募集
10	くまもと 環境フェア 2008				
11		11月中旬 男女共生フォーラム での体験学習	マイバッグ コンテスト	△ササビ報告集会	駐輪場調査
12					
09/1					
2		環境問題に関する 映画上映会		地下水流域の 見学と交流	
3				ざる田通信	

※日程や内容等は都合により変更する場合がございます。

コラム『大津瀬田裏原野の野焼きに思う』

こんにちは、はしよりくまさんです。

3月16日(日)に大津瀬田裏原野の野焼きを見に行ってきました。

☆少し調べてみました(^^)v

- 1) 野焼きで、草原から森林へ移行するのが止まり草草が維持される。
- 2) 新たに出る若草のための肥料とする効果。
- 3) 害虫を焼き殺す効果。
- 4) 野山を草地として継続的に利用。

☆思ったことは(-_-)q

貯水池があると雨が直接川に入らないので地下水保全になるかも。

岩をこすんで水たまりを作れば良いのかなと思った。

牛の水飲み場としても利用でき、防火水としても使えるかな?なんて、

ダムみたいにすると、自然決壊で洪水になるので 穴を掘ると良いのかなとかただ、スケールが大きすぎて自然

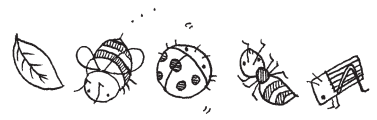
に手を付ける覚悟があるのだなと思い直しました。

☆聞いて、見てから(*o*)

牧草地を守るための作業、高齢化が進み管理が大変のようです。

お年寄りばかりでしたが、経験した重み、一目置く存在感がありました。今年には消防団の協力がありました。

☆どっかで火事になったから(^^) ; 防火帯兼用の道路がもっとできる



WG 月	環境教育総合 プロジェクト	食と農・ くらしと環境	広報エコ パートナー	ゴミなくし隊	よかエネ部会
4	環境人材 バンク				
5				ごみ減量に 関する視察 (大津町)	よかエネ市民学校 草本系バイオマス 利活用施設の見学
6			入会パンフ作成		よかエネ市民学校 太陽光発電をテー マとした市民学校
7		7月または8月 野外エコ クッキング		生ごみリサイクル 先進地視察 (福岡)	よかエネ市民学校 学園大との連携 による環境教育
8					
9		食育エコ クッキング 年2回	『ぶちエコパ』 発行	ゴミなくし隊 チラシ第6号	よかエネ市民学校 省エネ講演会
10			エコライフ倶楽部 年5回、通年		
11				市民宣言の具体化 に関する取り組み 紙の分別促進	よかエネ市民学校 日田市バイオマス 施設見学
12			『ぶちエコパ』 発行		
09/1					省エネビジョン 策定
2					
3			『広報エコパ NO.8』発行	ゴミなくし隊 チラシ第7号	

※日程や内容等は都合により変更する場合がございます。

と、作業がはかどり 燃え移りが減り作業が楽になるそうです。

☆体験談(A^^);

見学のつもりが、あそこに先に火を入れる！ 風が変わるから こっちに来い！と命がけの作業でした。と後から思い出した。

こっちで10時から風が変わると！ 遠くで燃え方が遅い所で作業をされていた方がさっと場所を変えた。

テレパシー？その後、火が走っていきました 早い早い そこに行かなくて良かった はしれねー

体は、鍛えておかないといけなとつくづく思い知らされました。何もしてないのに山歩いだけでコワッてしまった。

無線連絡などもあったのかな、と後から思い 新人は、手を出してはいけないと思った。

☆後記(^^)^b

沖新漁協に協力して 瀬田裏原野3と真木地区1に植林をして、下草刈り等で管理が大変なことを思い知り、個々がんばって、環境保全に取り組んでいる人達が、環を作って境を除けば良い環境？あしからず

中村企画運営委員長

ワーキンググループ(WG)の活動紹介

グリーンコンシューマー ワーキンググループ

「グリーンコンシューマー」とは直訳すると“緑の消費者”という意味で、環境に配慮し、人にも地球にもやさしい買い物をする、賢い消費者の事です。

グリコンでは、「消費者が変われば社会が変わる！」を一つの理念として、今の私達の“暮らし”を見つめ直す活動を、楽しみながら取り組んでいます。

現在、そのシンボルとして取り組んでいるのが、「マイ箸普及活動」。その他、環境啓発の映画上映や、楽しいイベント企画が盛り沢山！グリーンコンシューマー活動は、家族仲良しになれて、家計にもお得♪

エコ・フリー・マーケット ワーキンググループ

「楽しく、自由な、エコマーケットを！」

お祭りや学校では、弁当や食べ物を入れる為に、多くの容器が使われています。資源の節約の為に、リサイクルしやすい容器を取り入れる事を考えてみました。実際にこのリサイクルしやすい容器を使用してみた実例も踏まえ、今後の容器の減量をうまく進める方法について考えています。また、エコフリマでは、多くの方がボランティアとして参加してくれ、イベントごみ減量に関する連続学習会も行い、パンフレットを作成しました。

自転車・バス・電車が主役の街づくり ワーキンググループ

「自転車・バス・電車に乗ってのびのびゆっくり。誰もがやさしくなれる街」

自転車が気持ちよく走れ、便利なバスや電車を誰でも気軽に利用できる街に暮らしたい。安全で健康的な“人が主役のまち”をつくりたい。そんな夢を抱いて活動しています。市民・学生・商店街それぞれの視点で意見交換をしました。

環境教育総合プロジェクト ワーキンググループ

「みて、きいて、かんじて、環境学習
～今日からエコを実践ね～」

地球の現状を知り、自らのライフスタイルを振り返り、実践する事を目的とし、環境教育のための教材の開発や、人材育成の機会や場を作る様に進めています。

これまで、環境教育教材CD-ROMの作成、親子を対象としたエコツアー、「地域でできる環境学習」をテーマとした講演会、先進自治体の取り組みの視察ツアーなどを開催してきました。

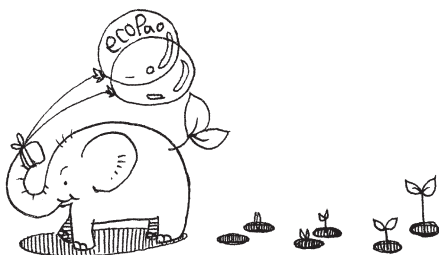
広報エコパートナー

「つたえる つたわる ひろげる」

広報WGでは主にエコパートナーくまもとの各WGの活動及び、環境フェアでのイベント企画の取材を行う事で、それを基にした広報誌作成、多くの人達に環境に対しての取り組みを知ってもらう事を目的としています。参加する事を通して、広く環境と人との関わり合いを知る事が出来ます。

よかエネ部会

地球温暖化は人類が直面している最大の問題の一つです。「よかエネ」部会はエネルギーに取り組む部会です。何よりも知る事が大事なので、太陽光発電や省エネなどについて専門家から学ぶ「よかエネ市民学校」を毎年開催しています。また、環境フェアでは、廃食油から作った軽油代替燃料(BDF)でシャトルバスを運行し、BDFを燃やして作った電気を使うようにしています。





水と緑ワーキンググループ

清冽で豊かな地下水を始めとし、川や海の水を保全するとともに、豊かな緑を守り、子・孫の世代に引き継いでいく事を活動方針としています。

これまで『間伐体験』『ムササビの森作り』『白川中流域との交流』を行っています。

また『熊本市民の森』を作り、自分達の手で森林を管理しながら、市民の環境学習の場として開放し、自然を大切に育てる心を持って活用していきたいと考えています。

是非、豊かな熊本の自然を次世代に確実に引き継いでいくための活動を、一緒にやっていきましょう

食と農・くらしと環境 ワーキンググループ

地産地消とCSA(地域支援型農業)の推進啓発を目指して、作るヒトと求めるヒトが出会う場づくりを進めます。

『中島ふれあいバスツアー』を計画、地産地消は輸送にかかるエネルギーも少なく、環境にもやさしい行動です。他にも、中島校区のハウス等の施設野菜見学、収穫体験(ピーマン、トマト、葉野菜等、メロンは見学のみ)、「パイオブラザおきしん」の見学等を行いました。

地元農家の方々のご好意により、だご汁、おにぎり、焼き蛤、焼肉、沖新海苔、ポン菓子がるまわれました。参加者は新鮮でおいしく愛情たっぷりのおもてなしで大満足！農家の方々は、育てた野菜を見て食べてもらい、安心安全を理解してもらえたことを喜ばれていました。

ゴミなくし隊

「ごみゼロへ！起こそう、くまもと エコウェーブ！」
「ゴミなくし隊」は、市民・事業者・行政の協働により、ごみの減量やリサイクルの推進に取り組んでいるワーキンググループです。

これまで、リサイクルできる紙の分別促進や、公開市民討論会の開催などに取り組み、「熊本市民はこうしてごみを減らします！」市民宣言の採択などの成果をあげてきました。

また、1月には熊本市内にある生ごみの堆肥化施設を見学し、ごみの一層の減量には生ごみのリサイクルが大きな鍵となると考えさせられました。

毎月一回、市役所で定例会議を実施中。

コラム

『不都合な真実』

今や有名な環境映画を見ました。きっかけは些細でした。私は「くまもと環境フェア2007」に参加して改めて環境について真剣に考えるようになりました。私のように些細なきっかけで良いと思います。参加しなければ環境について真剣に考え行動しているWGがたくさんあることも知らなかっただろうし、そのWGの方々の暖かさや真剣さについても触れることもなかったでしょう。そして“地球”が今どういう状況に晒されているのかと知りたくなったのです。「一瞬だけ大統領になったアル・ゴアです」このユーモアあふれる台詞から本編は始まりました。

ここ数年でCO₂量がほぼ垂直に推移しているグラフに衝撃を受けました。「どうしてチャンスがあったのに目覚めなかったのか」そう子どもに問いかけられたらどうしますか。心にグサッと刺さりました。解決するのは、そう一人ひとり。一人の行動でも大きく変わります。そして自転車でDVDをレンタルショップに返しに行ったらこんなDVDを発見しました。『不都合な日本の真実』う〜ん興味深いです！

コラム

『春に想う』

桜も終わり、青々とした緑を茂らせているこの季節、地元の井芹川で犬の散歩をしていると、つくしが生長したスギナが所々に生育しているのが目に付きまして、ふと、「ああ、もう少し早く気が付けば、つくし採りが出来たのに」と思いました。春野菜には、苦味がありますが、新陳代謝を良くする事によって、冬に鈍っていた体を目覚めさせる働きがあるそうです。まだ、僕が幼児だった頃は、近所に田んぼがあり、保育園帰りの際などに、つくしを採って祖父母の家で食べていた記憶があります。ただ、今は宅地化され、つくしは無くなってしまったと思っておりました。

しかし、この記事を書いた日に、その場所を散歩してみると、ほっそりとスギナが生えておりました。宅地化する事によって、確かに僕自身もその恩恵を多大に受けてきました。代わりに、土着の生物や、生命を尊ぶ生態系を失っていましたが、そのような場所でも生命は受け継がれている事を知りました。

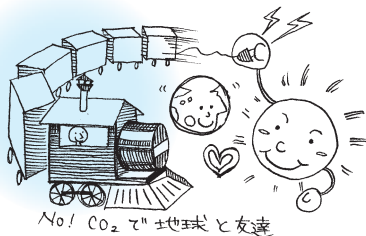
くまもと環境フェア2007紹介

2007年10月20日(土)、21日(日)熊本市動植物園の植物ゾーンにて熊本市との協働で「くまもと環境フェア2007」が開催されました。地球温暖化の原因となる二酸化炭素を減らすためのアイデアがたくさん詰まった催しが盛りだくさんでした。

エコライフコーナー

くまもと環境フェア2007の全体企画として実施された「エコライフコーナー」。よかエネ部会のリードで、さまざまな方の協力により、実現しました。

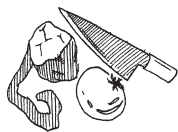
地球温暖化の主たる原因である二酸化炭素(CO₂)を削減する具体的なアイデアがたくさん。自転車・太陽光パネル・県産材・省エネ家電・ペレットストーブの紹介コーナーがありました。



子供たちは、太陽光パネルで動く鉄道模型に見入っていました。

又、野菜の皮を利用したかき揚げの試食に舌鼓を打つお母さん方等、みなさん楽しくエコライフについて学ぶことができたのではないのでしょうか。

各コーナーをクイズラリーでつないだことで、多くの方が全てのブースを見て回られたようです。



親子エコツアー

アフリカ象に餌をやってみると、近くで見る象の迫力や、肌触りなどを体験することができ、大変喜んでいました。

親子で作る象のフンを使ったハガキ作りでは、一枚一枚心のこもったハガキができたみたいで「知っている人に、このハガキを送りたい」という声もありました。



江江湖に流れ込む清流で、インストラクターの方から網の使い方や、生息している生物について教えてもらいながら、親子で生き物を捕まえて観察しました。外からはあまり生き物がいないようでも、網を使って、水草や、砂利をすくうと、カニやエビや、水生昆虫など様々な生き物が生息していることが分り、驚きと、生き物と直接観察し、触れ合うことで、命のすばらしさを感じられると共に、この経験が、今後の水に対する興味が養われていくきっかけになると思います。



コラム『新たな価値観』の誕生秘話

「そんなに友達が欲しいなら犬でも飼え!」映画「ウォール街」での台詞です。それほど犬や猫達の存在は私達の心の癒しとなっている。私も、犬や猫達の住み家(?)の端を借りて、寝起きをさせてもらっている程の無類の動物好き♪20年ほど前のことだが、飼い猫の中の一匹が不慮の交通事故にあい、複雑骨折で緊急入院!!合併症を併発して2ヶ月の長い治療期間を経てやっと無事に退院♪兄妹猫たちも大喜びで、向かい入れた。一緒に外で遊ぼうと出かけていく兄妹猫達を横目で見ながら「良いリハビリになるわ♪」と嬉しく感じていた。ところが、フラフラしながら帰宅したかと思ったら、突然泡を吹いて倒れて、死亡…納得の行かなかった私は病院で解剖検死を依頼。死因は農薬が除草剤を撒かれた草を食べたことに起因していた…一瞬、私の中で何かが音を立てて崩れていくのを感じた。その悲しみを紛らわそうと、生後39日の大型犬の仔犬を購入。その可愛らしさといったら、まるで“ぬいぐるみ”のようだった♪

ぬいぐるみのように可愛らしかった仔犬も2ヶ月がたち、だいぶ脚もしっかりしてきた。ある日、水遊びが好きだった仔犬を緑川まで川遊びに連れて行った。「ほら、大好きな水遊びだよ♪」と仔犬の脚を川につけようとした瞬間、後ろか

電気自転車に乗ってみよう！

自転車は環境に優しいと共に、体力を向上させる便利な移動手段です。

ただ、自転車は漕ぐのがきついというイメージがありますが、電気自転車だと、ペダルを軽く漕ぐだけで、加速が良く、坂道もまるで何かに自転車を押しもらっているかのように、すいすい登って行けます。乗ってみたお客さんも、電気自転車の乗り心地を楽しんでおりました。



「ロックDEお茶！」ちょっと一服

入れたての熱いお茶の中に、氷を入れることによって、急速に冷却し、お茶がよりおいしいお茶になります。

マイ水筒を持ってきてくれた人には、水筒にお茶を補充してくれるサービスも行っていました。是非、お出かけの際にはマイボトル！



寸劇・4R劇(ステージ)

リサイクル（再生利用）・リユース（再使用）・リデュース（ゴミ減量）は知ってのとおり、それにリフューズ（購入拒否）を加え、劇にした4R劇。それぞれの意味4Rの大切さを分かりやすく解説。そして何より、おばちゃま方のコント調で大きな身ぶり手ぶり、笑いを交えつつの可愛いらしい演技が魅力の一つでした。



取材後記

両日とも天気に恵まれ、1万人もの来場者がありました。マイバック作りや竹細工といった体験学習コーナー、クイズやパネル展示など、様々な経験を通して、様々な気づきや学習ができたのではないのでしょうか。来場者の中には、去年も来られた方もおられたり、この環境フェアが意識を変えるきっかけになっているのだと感じました。また、世相を反映してか、約束の木の中には、「アイドリングストップを行う」といった、去年は無かった事柄も含まれており、今年もたくさんの、環境保全に対して取り組んでいくという宣言提案がなされていました。今後も、熊本の良さや、環境の大切さが分るように、多くの人たちと交流が可能な環境フェアであってほしいと思います。



ら大きな声で誰かが叫んでいる。何を言っているのかなと振り返ってみると、その女性は私に向かって「今の時期は川に農薬が流れてくるから、そんな小さな仔犬を川につけると死んでしまうよ!!」ときつく注意してくれていたのだ。

仔犬を川で遊ばせることのできない現状に愕然としてしまった。数ヶ月前に仔猫を除草剤で亡くし、今度は仔犬が農薬の危険に……目線の低い者達があまにも危険にさらされ過ぎている!!「じゃあ、人間の子供も達はいったいどこで遊ばいいの!!」と心の中で叫んでいた。私達の子供時代は、草花を摘んで首飾りを作ったり、川で泳いだり、泥んこになって帰ってはよく母親から叱られたものだった。今の時代は、目線の低い子供達がこんなにも危険にさらされていたんじゃ遊ぶ場所もないんじゃないの? 一体、世の中はどうなっているの? 何かが狂っている気がする……それまで、長年、私の中で積み上げてきた価値観がガラガラと大きな音を立てて崩れていった瞬間であった。私の中に「環境問題」という4文字が刻み込まれていくきっかけとなった出来事であった。あれから20年。私の中に生まれた新しい価値観は、今確かな芽吹きをはじめている。

